

アベリスツイス高校生派遣事業

宮津高等学校 2年 S. O.



○参加理由と目的

私が参加しようと思ったきっかけは、姉たちが参加していて、いつも「本当にいい経験になった。楽しかった。また行きたい。」と嬉しそうに話していたことです。このような姉たちを、小学生のときから見てきて、自分も高校生になったら参加したいなとずっと思っていました。そして、何より一番の参加しようと思った理由が、外国に文化や言語に興味があることです。だから、英語を使って多くの人と関わってみたいと思い応募しました。しかし、事前研修でこの派遣事業の本当の目的を知りました。何度も何度も「この研修の目的は英語を話せるようにするためではない。エバンスさんの伝えたかった『平和』について考えること。」と言われてきて、私もだんだん目的が変わっていきました。

○ホストファミリー

ジョー



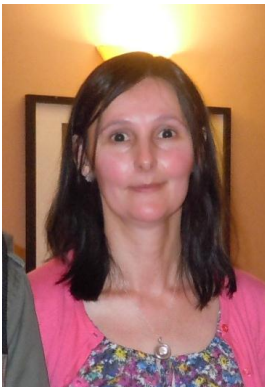
16歳で、気が使えて優しい。

ホストマザーの影響なのか、日本がとても好きで、週一回日本語の教室に通っている。

おはようなどの簡単なあいさつや、大丈夫などをいっぱい使っていた。初日には、「あなたの趣味はなんですか？」と日本語で質問してくれた。

「これは日本語でなんて言うの？」といつも聞いていて、本当に日本に関心を持っていた。

ホストマザー



9年間日本に住んでおられたので、日本語がとても上手く、ほとんど日本語で話していたので、話していると、日本にいるようで、とても落ち着いた。

経理の仕事で、家でも仕事をしておられることが多く、いつも忙しそうだった。

「退屈じゃない？」とか「疲れていると思うし寝ていいよ。」といつも私のことを気にかけてくれた。

ホストファーザー



コンピューター関係の仕事をされている。

いつも家事を全部されていて、ホストマザーが「いい旦那でしょ。家事は全部してくれるの。」と言っていた。

仕事をしているホストマザーにいつもコーヒーを入れてあげていた。いつも緑茶をいれてくれて、途中でなくなったときは、わざわざ私のために買いに行ってくれた。

あまり話さない静かな人だったけど、よく笑う人だった。

アレックス

いつも自分の部屋にいたので、一緒に写真を撮ることができなかった。15歳で、絵を描くことがすきで、部屋の壁にはいっぱい絵があった。
ギターを弾くことも好きで、いつも私が寝るとき、隣の部屋から聞こえてきた。

フィービー



私より年下だとは思えないほど、大人びている14歳。
動物が好きで、毎日朝早くと夜に犬の散歩をしていた。
犬のしつけもしていた。
弟のテディの面倒をよくみていて、しっかり者。
私が持っていたカイロを見て、「それなに？」って不思議に思っていたので、渡してみるととてもびっくりしていた。
最後の日に夜ご飯を作ってくれた。

テディ



元気いっぱいの6歳。
ずっと戦いごっこみたいなのをやっていて、私も一回一緒にしましたが、いっぱい走りまわるので、とても疲れました。
私に、いろんなことを教えてくれようと、いっぱい話しかけてくれました。
とてもかわいかったです。

ホストファミリーは、私のことをとても気使ってくれて、みんなとても親切でした。とても仲のよい家族で、よく家族みんなでゲームしたり、毎日が楽しい家でした。

○風景



ホームステイ先の近くにある海



どこにいても羊！人口よりも羊の方が多い。



街並み



たくさん城があるうちの一つ



標識などはウェールズ語と英語で表記

アベリスツイスのまちは、どこを見渡しても、自然にあふれています。

街並みが全ておしゃれに見え、海も山も空も全てがきれいでした。

これで田舎なのか。と思うほど綺麗で、観光するところがたくさんある、とてもいいまちでした。

まちの人もみんな明るく元気な人が多く、優しい人ばかりでした。

○食文化

イギリスの料理はおいしくないというので、そうなのかなと思っていましたが、とてもおいしかったです。

初日に、チキンの丸焼きがでてきたのは、びっくりしました。

家のご飯の量はそんなに多くはなかったのですが、外食するととても量が多くて、毎回とても大変でした。



↑ ホテルのバイキングに連れていってもらいました。

肉の種類がいっぱいあり、自分の欲しいのと言って、その場で切ってもらうので、日本にはない光景なので、びっくりしました。デザートの種類も多く、全部食べたいと思うほど、おいしかったです。



←伝統的な朝食

ランチの時間がはじまっているのに、何件も回って食べさせてくれました。



←外食 フィッシュ&チップス

とても量が多かったです。

ストップといってもたくさん入れられるので、本当に大変でした。ジャガイモがいろいろな料理方法でたくさん出てきました。みんなこれよりも多くの量を普通に食べていていました。

○思い出



アウエルさん

アウエルさんには本当にお世話になりました。
どこに行くのも全部一緒に、分かりやすく説明してもらいました。
「問題ない!」「行きましょう!」が好きでいつも言っておられて、おもしろい方でした。



国立図書館

本だけでなく絵画などもあり、何時間でも居られるようなところだった。
とても大きなところで、普段入れないようなところにも、案内してもらいました。



花火

一緒に近くで花火をしていたので見に行きました。
音楽が流れていたりして、日本とは少し違いました。
開場全体がとても盛り上がっていて、とても楽しかったです。



ポピーの日

第一次世界大戦の終戦日である11月11日11時に、胸にポピーをつけ、黙祷を戦死者に捧げました。



スーパー

何もかもがサイズが大きくて、びっくりしました。
お菓子売り場に行けば、チョコばかりでした。
レジが日本とは違い、



牧場

牛や豚など多くの動物や、
たくさんの植物がありました。

日本では見たことのない
花などがあり、とても楽し
かったです。



電車で約2時間乗り、みんなで買い物に行きました。

どの店に入っても、おしゃれなものばかりで、見ていてとて
も楽しくて、あっという間に時間が過ぎました。



ホームステイ先のジョーだけではなく、みんなと仲良くなることができました。

みんなとても明るく優しく、いっぱい話しかけてくれるので、すぐに慣れて仲良くなりました。

お別れのときは本当に寂しかったです。

来年、与謝野町にきたいと言っている人もいたので、また出会えたらいいなと思いました。

そしてまたいっぱい交流したいです。

○エバンスさんのお墓



研修の一番の目的であるエバンスさんのお墓参りに行きました。

戦争によってエバンスさんのような辛い思いをした人は多くいると思います。

今の日本には戦争はなくて、私も戦争がどのようなものなのか、あまり分かりません。

毎日何の不自由もなく暮らしている私達には、平和について考える機会がそんなにないと思います。でも、エバンスさんのように、「ずっと忘れず伝えていきたい」と思い、伝えてくれる人もいます。エバンスさんのような人の思いを、これからもずっと大切にしていきたいと思いました。

この研修で知り合った人、仲良くなった人は多くいます。もし、イギリスを戦争になったら、私はこんな大切な人たちがいるのに、争うことなんてできません。

自分なりに、世界のみんなが平和になるにはどうすればいいか、考えていこうと思いました。

○研修に参加して

はじめは不安しかなかったこの研修も、ホストファミリーがとても親切にしてくれたおかげですぐに慣れ、とても楽しむことができました。

ホストファミリー以外にも多くの人と関わることができました。

言語や文化が違ってお互いが理解しあって、つながっていけることは、本当に素晴らしいことだと思いました。こうやって、つながれたのは、エバンスさんのおかげです。エバンスさんの望まれる平和は、こうやって作られていくんだなと思いました。

この研修での経験を将来に活かして、国際関係の仕事に就き、多くの人と関わり、お互いのことを理解し、平和について考えていきたいと思いました。

本当に、この研修は私にとって、とてもよいものになりました。

与謝野町のみなさんや、アベリスツイスのみなさんに、感謝したいです。

本当にありがとうございました。

アベリスツイス実績報告書

加悦谷高等学校 2年
A. T.

私がこの交流に応募してみようと思った理由は、外国に行ってみたい！もっと自分の世界を広げたいと思ったからです。見知らぬ土地で生活することの大変さは覚悟をしていましたが、この研修に行けることによって、自分を大きく成長させられるのではないかと思ったからです。

自分がいけることが決まった時は、嬉しさと不安でいっぱいでした。行くことができなかった人たちを見ると私が行ってもいいのかという気さえもありました。しかし研修を重ねて、エバンズさんのこと、日本のこと、イギリス・ウェールズのこと、アベリスツイスのこと、たくさんの知識を得るたびに、やるしかない！行けなかった人の分まで学んでこよう！という気持ちに変わっていきました。

行きのバスでは不安でいっぱいでしたが空港に着いて手続きを済ませると、意外にも落ち着けていたと思います。しかしバーミンガムからの電車ではまた極度の不安に陥って、あと数時間でホストファミリーに会うのだと思うと緊張せずにはいれませんでした。アベリスツイスについて暗い中ホストファミリーと会って家に向かいました。しかし、いろんなことを教えてくれるし緊張などすぐにとけてしまいました。

@) ホストファミリーについて



- ・ パパ (51)
- ・ ママ (51)
- ・ お兄ちゃん (19)、
- ・ セリーン (16)
- ・ アイリーン (10)

5人家族。＋ネコ1匹

お兄ちゃんはカーディフで大学に通っているから家にはいない。

お兄ちゃんとは一度テレビ電話で話しましたが、名前の発音が難しくて聞き取ること

ができませんでした。

家ではドイツ語と英語が話されている。

パパとママは両方とも医者をしていて、パパは外科でママは麻酔専門医。

向こうの人達との会話は聞き取るので精いっぱいだった1日目。あいまいな答えはだめだと思って正直にわからないと言うのですが、伝わらない気まずさなど、ホストファミリーにかけた苦労を考えると今でも申し訳ないです。しかしそんな1日目に比べればそれ以降だんだん Yes/No 構文ではありますが成り立ったように思います。もっと英語を勉強してくれば良かった、などと感じたことは多々ありましたが、それでもジェスチャーなどで通じます。私たちは文化の違いや宗教の違いでさまざまな争いをしてきましたが、根本は同じ人間でなんでも分かり合うことができるということを忘れてはいけないように思います。

食事について、イギリスの料理は世界的においしくないと聞いていましたがおいしかったです。ただ量がものすごく多いのです。しかし薄味なので比較的あっさり食べられます。食後にはいつもプディング（デザート）がでます。

私はもともと小食だったので、おかわりを勧められてもたべることはできませんでした。しかしみんなおかわりをして食べてしまうので、今さっきまで目の前にあった大量のご飯はすぐなくなってしまいます。毎回、細い体でよく食べられるものだと驚きの連続でした。

シャワーは朝、洗濯は毎日しないなど日本とかなり違ってきます。寝る時間も早く、ご飯を食べて少ししゃべったり遊んだりしてそのあと寝るので、10 時ぐらいには寝ていました。しかし夜の街でも結構人はいました。

学校はとても自由だと感じました。学校も大きいし、生徒や教師の数も多かったです。高校ではきっちりとした制服がなかったり、大学のような授業選択であったり、日本に比べだいぶゆるい感じでした。時間には結構ルーズでチャイムが鳴ってから動き出す人がほとんどでした。しかし、授業を見ると真剣な様子が見えます。

初日、アートとクッキング・ミュージックの授業に参加させてもらいました。アートではそれぞれが違うことをやっていて、わたしには理解できないものもあったけど、自己主張がすごいと感じて、これも文化の違いなのかなと感じました。クッキングではショートブレッドを作って、レシピもいただいたのでまた自分でも作ってみたいです。

学校にはいろんな人がいたけど、日本人に比べて外国人はみんな本当に大人っぽいです。私たちと1,2歳さとは思えないほど大人びて見えたし、化粧やピアスもしているのによけい大人っぽく見えました。でも話してみると年相応って感じの人がほとんどでした。

向こうの学校の制度はとても素晴らしいと思ったし私も通いたいと思いました。

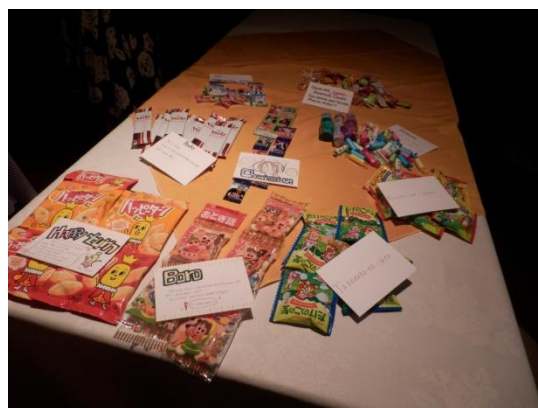
気候としては寒いです。あいにく私たちは雨にうたれることが多かったですが、晴れた時はとても気持ち良かったです。田舎だと聞いていましたが、駅やお店やたくさんの家がならんでいて、日本の田舎とは大違いでした。しかし少し離れるとあたりは緑色の景色で羊がたくさんいました。山は日本のように木で覆われているような感じはなく、ところどころ木が生えて地面が見えているようなところばかりでした。高さもあまりありません。向こうの夜空はとても澄んでいて、たくさんの星が見えとてもきれいでした。

個人的に印象に残っている場所は、カーナーヴォン城とコンサートです。

カーナーヴォン城は「天空の城ラピュタ」のモデルとなったお城です。行く前に調べていましたが、行けるとは思っていなかったのが本当にうれしかったです。中に入ることができず少し残念でしたが、また行く機会があればいいなと思っています。

コンサートは初めての経験でした。なかなかあのようなかっこいいコンサートに行くことはなかったし、自分から行こうとは思わないだろう場所でした。しかし連れて行ってもらったおかげで見聞を広めることができ、いい経験ができたなと思っています。

レセプションは本当に緊張しました。まず会場に行ってみみんなと練習をしました。時間の都合上で用意していたクイズの問題数を減らしたり、スピーチの見直しをしたり、お菓子や絆創膏などをセッティングしたり、直前にも関わらずバタバタしていたのを覚えています。



そしてなんの合図もなくレセプションが始まります。最初にご飯を食べました。少ししたらアウエルさんのスピーチが始まり、井上さんのスピーチ、そして私たちのスピーチの番になりました。私のスピーチは2番目でした。スピーチで「緊張している」と言った時、笑ってくだいぶ緊張は解けたと思います。そのあとのクイズの順番の1番最初をいうのを気にしていましたがみんなクイズに参加してくれて練習の時より随分とスムーズにできてうれしかったです。

そのあとは自由な感じで、みんなとしゃべったり写真を撮ったりしました。用意していたお菓子や、絆創膏、文化のものなどもみんな興味を示してくれてよかったです。



この研修を通して思ったことは、捕虜というものが現代においていかにスポットの当たらないものかということです。英雄のように語られ死んでいった兵士たちの物語を私はいくつも知っています。しかし私は捕虜というものを今回の研修に参加するまで、耳にしたことはあっても深く考えようとしていませんでした。事前研修でエバンズさんの話を聞き、列車のなかにぎゅうぎゅう詰めに乗せられたり、強制労働させられたり、いかに苦しいものだったのかを知りました。

そして私は、戦争は人の人生を終わらせるだけでなく、狂わせるものだと考えるようになりました。

「戦争は両方が正義だ」と今でも私は思っています。だからどちらも命をかけて闘っていたのだと思います。だから戦争をすること（対立をすること）をよくないとは思いません。しかし「戦争をすれば人が死ぬ。人が死ねば悲しむ人がある」というのはよくないことです。その当り前のことをみんなにもっともっと意識して覚えておいてもらいたいです。また国や人種が違ったって、言葉が通じなくなつて、楽しいものは楽しい、面白いものは面白いっていっしょに笑えるということを感じてほしいです。

私自身この研修を通じて研修を通して成長できたかという正直わかりません。知らない土地での生活は1週間もしたら慣れてしまうし、たった1週間では人は変わりませんでした。それでも、実際に自分の目で見て感じてきたことで、心境の変化は少なからずあったと思います。この研修を通して将来の夢が変わったなどということはなく、私の夢は研修に行く前と変わっていません。しかし1つあげるとしたら海外旅行に行きたいという思いが強くなったことだと思います。以前は観光をしたいという目的だけでしたが、今は観光をしたい、現地の人たちと交流がしたいと思うようになりました。

この研修に限らず、海外に行くことはたくさんのお金がかかります。それでももっともっといろんなところに行って自分の世界を広げたいです。

最後になりましたが、この研修に携わってくれた方々、本当にありがとうございました。

この交流がいつまでも続き、多くの人が戦争と平和について考えてくれることを願っています。



アベリスツイス 研修を終えて

加悦谷高等学校 2年
Y. H.

11月3日～11月14日

訪問目的

私が何を目的にこの訪問をしたかと言うと、
まずはエバンスさんの想いや意志を自分の目で直接感じようと思いました。
研修に参加できると決まった時点でこれは私たちがしなければならない
重要な任務だと考えていました。

またこれまで与謝野町とアベリスツイスが続けてきたこの交流が
どれほど素晴らしいものか、どれほど深い意味を成しているのかを
自分自身が体験して、今後に生かしたいと思いました。

戦争によって失われた多くの命やエバンスさんが日本の捕虜になったことから
始まったこの交流を私たちは軽く見がちですが、ものすごく重いものだと捉えています。
一言では表せないくらい重い過去があったからこそ、今こうやって
交流ができているのだと思います。

そんな沢山の想いを背負ってアベリスツイス訪問をしました。

訪問後

～その目的がどのようなになったか～

エバンスさんの意志や想いをパレードから感じる事が出来ました。

戦争の恐ろしさやもう引き起こしてはならない恐ろしい出来事を

エバンスさんは高校生派遣事業を通して伝えたかったのだと

改めて分かりました。

深い意味まで分からなかったところは残念な点です。

～この研修で得られたこと・為になったこと～

言葉が多少通じなくても分かり合えるということを得ることが出来ました。

訪問前はとにかく不安で日が近づいて来るにつれ、緊張や不安が増してきました。

着いたら本当に温かく迎え入れていただいて、私が何をしたいのかなど

言っていないことも分かってもらえました。本当に嬉しかったです。

こうやってしていただけるのも、全てエバンスさんのおかげなんだと感じました。

～考え方・ものの見方・自分が変わったこと～

自分でも分かるくらい素直に感想が言えるようになりました。

なかなか感情が露に出来なかったのですが、アベリスツイスの街並み、人柄、もの、歴史などに直接触れてみることによって、自分自身何かが大きく変わった気がします。積極的になれたのはもちろん、物事を大きな範囲で見ることも出来るようになりました。

～参加してよかったこと～

この研修事業に参加できて本当に良かったと思います。

日本では考えられないような異文化交流が数えきれないくらい出来たし、戦争の怖さも教えられたわけではないですが、ひしひしと伝わってきました。人と人の関わりを知ることによって、優しさも学びました。

日本との違い、また日本と同じ点を知り、自分が日本に住んでいてよかったと思えるような場面にもたくさん出会いました。

日本から一歩外に出てみることによって、日本の新たな良さが分かりました。また、沢山の優しさや人柄の良さを見て、私もこんな風になりたいと思いました。

将来どのようにこの体験を生かすか

私の将来の夢は教師です。

教師は生徒に沢山のことを教えられる職業です。

だから私は勉強のほかに戦争の怖さ、人との関わり、
優しさ、思いやり、自分に自信を持つこと、積極的になることなど
今回私が学んできた多くをそのまま教えてみたいと思います。

体験したからこそ人は物事を語れるのだと思うので、

こんな貴重な体験滅多に出来ることではないから、

少しでも多くの人に私が得たものを伝えて行きたいです。

ただの観光や留学ではなく、この体験はメッセージ性の強いものなので、
ずっとずっと忘れないで人に伝えて行こうと思います。

実際自分で体験しなければ分からないことだらけですが、

伝えないで置いておくのはもったいなすぎます。

夢を叶えて、そのことを知ってもらいたいです。

この体験を通して伝えたいこと

私がこの貴重な体験をして皆さんに伝えたいことは
「二度と戦争はしてはならない」ということです。

訪問前にも思っていたことですが、訪問後さらにこの想いが強くなりました。
これはパレードを通じて感じました。街の皆が多くの失われた命を
ただただ黙って惜しんでいるという切ない現場を生で見て、
これ以上こんなことを増やしたくないと思いました。

日本でも同じようなことをしますが、これが世界中で行われているのを
生で見てしまうと、感じるものがやはり違いました。

私たち高校生がこの想いを持っている限り、
今後絶対に戦争は起こらないと思います。

エバンスさんが伝えたいことがものすごく分かりました。

戦争は誰にもメリットはないから、やるべきではありません。

ホストファミリー紹介

スピンク家

父 マイオス(61)

母 ルーシー(51)

姉 グウェンヒアン(16)

妹 ドウイヌウェン(14)

両親ともに教師をしてらっしゃいます。





終わり

アベリスツイス 研修報告

加悦谷高等学校 2年 W. Y.

○ 訪問目的

- ・ 自ら積極的にアベリスツイスの文化を知り、日本の文化も知ってもらう。
- ・ 戦争が二度と起こらないように、これから交流がもっと深まるようにする。
- ・ アベリスツイスの歴史を知る。

○ 訪問を終えて

＜達成できたこと＞

- ・積極的にホストファミリーと交流できた。

アベリスツイスのことを教えてもらったり、日本のお菓子を持っていって、食べてもらったり、折り紙を折ったり、積極的に交流ができてよかった。

- ・図書館や城などを訪問して、歴史を知ることができた。

城では、当時の弓矢のいり方を再現してもらった。図書館では、さまざまな芸術にもふれることができた。



<この研修で思ったこと>

・フランク・エバンスさんの捕虜体験から始まった、この交流は、20年間続いてきているのもあり、私たちが訪問に行ったときには、アベリスツイスの人たちが、みんなあたたかく迎えいれてくれて、交流がより深まったと思います。

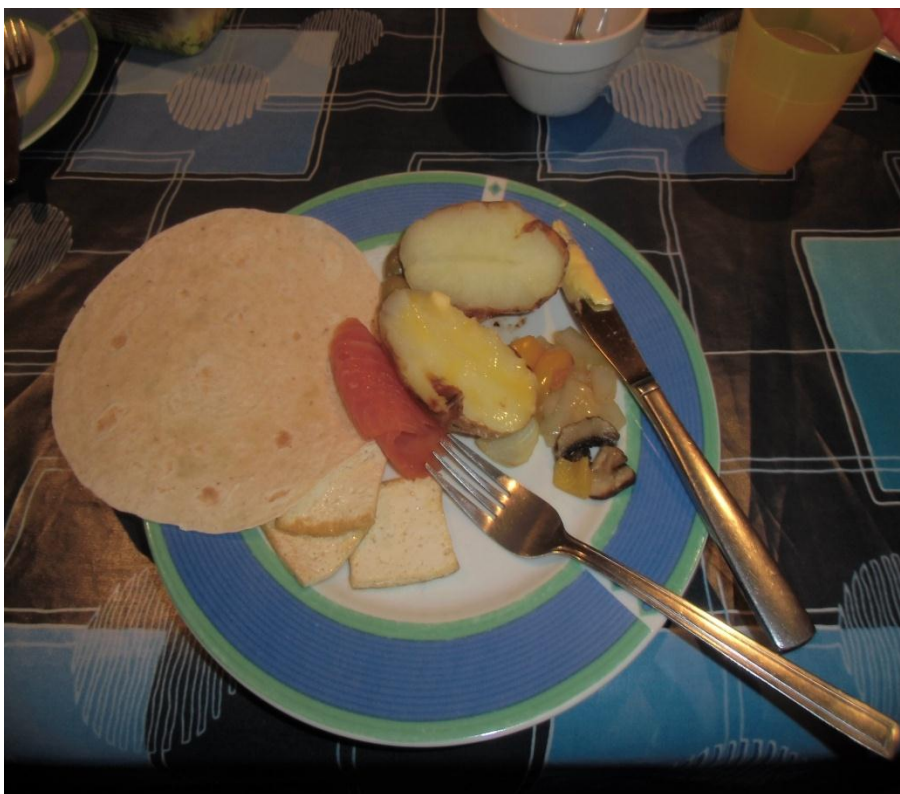
フランク・エバンスさんの墓参りでは、二度と戦争は、おこしてはいけないと改めて感じることもできたし、学校訪問で見た樁の木は、平和の象徴でもあり、自分たちの目で樁の成長を確認することができて、これからもずっと交流が続いてほしいと思いました。

<参加してよかったこと>

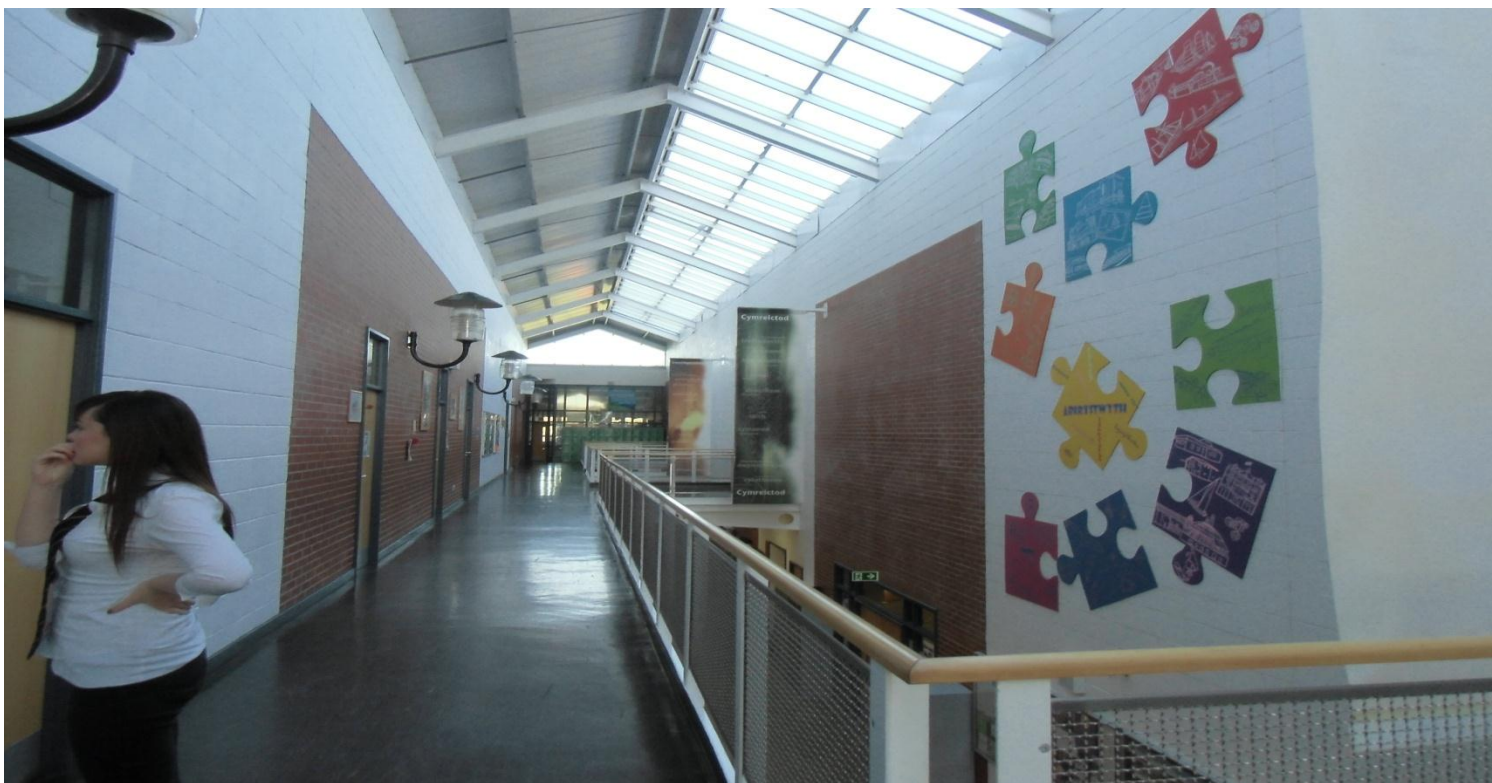
わたしは、この派遣事業に参加できて得るものは、たくさんありました。加悦谷高校には、フランク・エバンスさんの捕虜体験の話や、交流のことは、聞いたことがありましたが、この事業に参加して、実際行って話を聞くことで、より現実的に考えることができました。また、ホームステイを通して身をもって、アベリスツイスの文化を知ることができてよかったです。

○ アベリスツイスの食文化





○ 学校訪問



○町民に伝えなければならないこと

わたしは、このフランク・エバンスさんの捕虜体験は、加悦谷高校でのマザーグースの方や糸井さんに講演していただいて知りました。なので、与謝野町民は、あまり多く知られてないと思います。与謝野町民にもフランク・エバンスさんの捕虜体験を詳しく伝えて、二度と戦争が起こらないようお願いしたいです。

○最後に

このアベリスツイスの派遣事業に参加できて、自分の将来も見直すことが出来たと思います。まず、積極的に話すことが大切だと分かりました。上手く話せなくても伝えたい気持ちがあれば、伝わると思いました。自信にもなりました。この貴重な経験を通して、この先、もっと国際交流にたずさわっていけるように自分の将来をもう一度見直そうと思います。